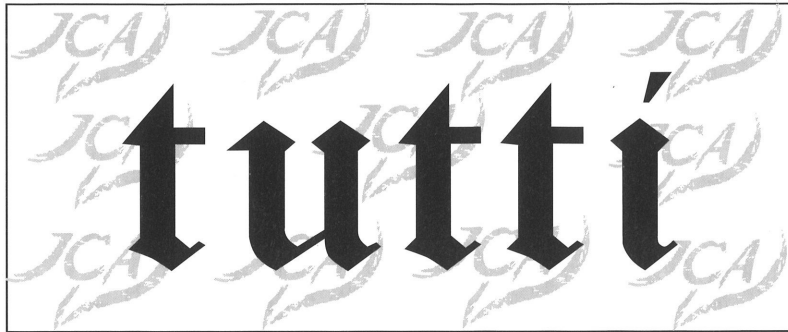


富山県合唱連盟

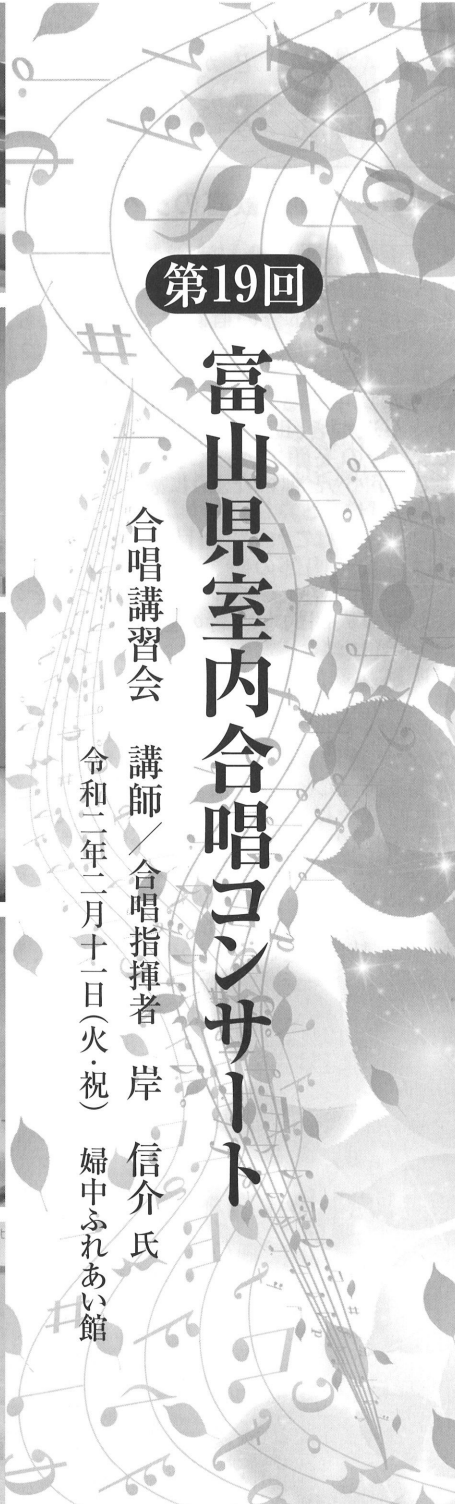
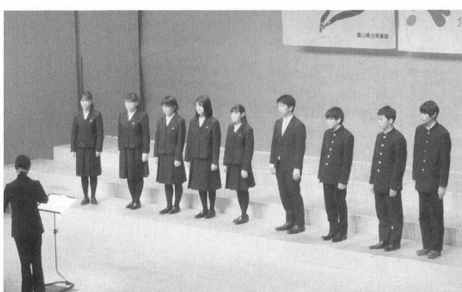
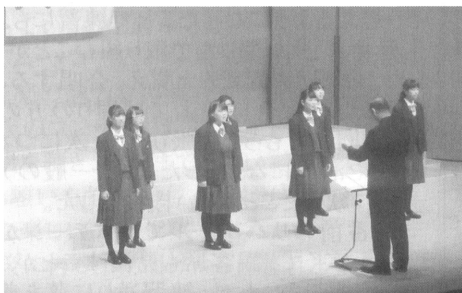


第64号 2020年4月25日

富山県合唱連盟

事務局
北日本新聞社事業局事業部内
〒930-8680 富山市安住町2番14号
TEL (076) 445-3355
FAX (076) 431-1924

発行人 中井隆司



第55回 第九「交響曲・歓喜の夕べ」

2019年12月22日(日) オーバード・ホール

「第九・歓喜の夕べ」を終えて

富山県合唱連盟常任相談役・第九特任

松下 正樹

「第五十五回 第九交響曲・歓喜の夕べ」が令和元年十二月二十二日(日)、オーバード・ホールにて開催された。

指揮者に、初めて円光寺雅彦氏を迎え、例年同様、東京交響楽団としてソリストに、ソプラノ澤山晶子さん、バス森雅史さんら県出身者も加わった。合唱には約三百二十名が参加した。

ゲネ・プロで、円光寺氏から、第4楽章を構成する各部分の特徴を生かした表現、歌い出しのしつかりした声、男声と女声との調和、歓喜を歌う顔の輝き、二重フーガのテーマの歌い方など多くの示唆をいただいた。本番の合唱は、巧みな指揮に導かれ、冒頭からクライマックスまでの凄まじい高揚感が印象的だった。公演後、合唱団員や周囲の皆さまから、「今年の第九は良かった。」指揮がわかりやすく歌いやすかった。「音楽に引き込まれゾクゾクした。」など、喜びや賞賛の声が多く聞かれた。

また今回、北日本新聞創刊百三十五周年を記念して、第九の演奏前に、高岡出身の若手ピアニスト中川佳美さんによるピアノコンチェルトが演奏され、華やいだ公演となった。

ところで、十月からの練習日では、ほぼ毎回、指導者が複数体制で臨んだ。また、十一月には、例年通り、特別指導があり、団員の皆さまも熱心に取り組まれ、徐々に本番に向けて準備ができたと思う。ここ二十年ほど合唱団員の推移をみると、多いときに比べ百名あまりも減少しているが、女声の減少、高齢化が顕著である。これは、連盟加盟、加盟以外の団員共に言えることである。また、男声は少ない中にも、加盟以外のベテランの方の長年の参加が心強い。高校生・大学生は男女共、例年通りの参加があり、合唱団としてそれなりのバランスが保てたとと思われる。

今後も合唱団の構成、練習計画等に留意し、皆さまにご協力をいただき共に第九に取り組んでいきたい。

第55回第九交響曲「歓喜の夕べ」に参加して

男声合唱団K&クルー 小西 由郎

令和初、節目の演奏会のマエストロは、富山の第九初登場の円光寺雅彦先生であった。個性を発揮し奇をてらう演奏をしたがる指揮者も多いなか、円光寺先生はオーソドックスな指揮で、大変歌いやすかった。この方がお客様の受けもよいようだ。

私が初めて第九を歌ったのは昭和39年8月、県民会館大ホールの柿落としでのこと(富山の第九としては第3回)。以来第九の魅力に取りつかれ転勤先の全国あちこちでも歌い、昭和61年からはほぼ毎年富山の第九に参加している。旧富山市公会堂では600名近い大合唱で、「刺身状態」で歌い、最後列では天井のライトの熱で髪の毛がチリチリしたのが懐かしい。今回の合唱団は約300名に激減したのが何とも寂しい。ベテラン・常連の不参加が目立ったが、一般団員が参加しやすい環境作りの必要性を感じた。また高校生に助けられた第九合唱団であるが、高校生団員が暗譜で歌っているのには、いつも感心させられる。一度覚えれば一生モノ、是非第九を継続していただきたい。私自身は足腰が丈夫なうちはずっと第九を歌いたいと思っているが、どうか富山の第九の灯を消さないようお願いしたい。合唱団員や「第九の会」のメンバーを増加させるには、やはり演奏会の質を高める地道な努力に尽きると思っている。

合唱団「ミル・ステラ」 宮本 幸江

リハーサルに立たれた円光寺雅彦先生は「サビ部分の直前まで暗さを保ち、一瞬で明るい表情に変えて歌い上げましょう」と指導された。暗譜が不完全な私はこの一点にのみ集中すると決めた。いよいよ本番、その時が近づき、助走のような動機を3回聞いて、渾身の笑顔で放った「フロイデ」に、客席までもがパッと輝いたように感じた。胸が熱くなる瞬間だった。

私にとってはこれが3回目の「第九」だ。1回目は高校合唱部の時、2回目はこれから合唱をもう一度始めようという時、しかし、その後はあの非人間的な高音の連続が嫌で歌おうという気にはならなかった。ところが、今年私が所属する合唱団「ミル・ステラ」のメンバーが、令和元年「第九」で締め括ろうと言ったのを聞いて、「それもいいね」と賛同し参加を決めた。皆同じ思いだったのか、8人もの団員が参加することとなった。

1年前我々は、「第九」を歌うどころではなかった。団員の減少に歯止めがかからず、このままでは団の存続も危ぶまれた。それでも幾度かの議論の末に、あと1年活動を見てみようかと一致した。ひたすら前だけを見て進む1年だった。特に何をしたいというのではないが、楽しい合唱団「ミル・ステラ」を守ろうという思いは団員全員に共通していた。幸い新しいメンバーも加わり、令和2年もコーラスを続けられそうだ。今回の「第九」は、まさにワンチームで苦難の1年を切り抜けたことへの「歓喜の歌」だった。

富山東高校合唱部1年 森口 葵

初めて参加した「第九 歓喜の夕べ」でしたが、部活動で楽譜を見たときはドイツ語で歌詞を覚えるのが難しそうと思ったり、高音がうまく出なかったりと本当にうまくいくのか不安でした。私は「第九」の有名なフレーズしか知らず、今まで経験したことのない大人数の中で合唱することに不安を感じましたが、合唱練習に一生懸命取り組み、部活動中に先生に指導していただいたり、パートの中で改善点を考えたりする中で、新しいことへの挑戦は面白いと思えるようになりました。そしてそう思えるようになったことで練習にもより一生懸命に、また楽しんで取り組むことができました。歌詞もだんだんと覚え、合唱することがうれしく感じ、合同練習では周りの方の上達ぶりを聞いてもっと頑張りたい、次につながる刺激や活力になりました。また一般の方々と一緒に歌えたこともよい機会でした。

本番前のリハーサルではステージが思いのほか広くて、観客席も見渡すことができ少し緊張しましたが、練習通りに落ち着いて歌うことができ良かったです。本番は緊張しながらも歌い切り、客席からの拍手を聞いてとても安心し、達成感を味わえた最高の舞台でした。練習も本番もとても過ごしやすいくらいで、また参加したいと思いました。



第19回 富山県室内合唱コンサート

合唱講習会 講師・合唱指揮者 岸 信介 氏

二月十二日(火祝)富山市婦中ふれあい館において、第19回富山県室内合唱コンサートが開催されました。全二十七団体四五二名が参加し、各団の持ち味を生かした演奏を披露しました。コンサートに先立ち、午前には全日本合唱連盟理事長 岸信介先生を講師にお迎えし合唱講習会が行われました。ハミングから響きのある母音発声に始まり、信長貴富作曲「夜明けから日暮れまで」を題材に、曲への深い想いを込めたご指導をいただきました。柔和で穏やかな口調の中に鋭い音楽の感性が伝わりました。流れるような指揮からほとばしる熱いメッセージに参加者全員がひとつになり、まるで岸マジックにかかったかのようにでした。音楽が躍動し素晴らしい曲作りを体感した一時間でした。岸先生には、午後のコンサートにおいても各団の合唱をお聴きいただきました。フィナーレには先生の指揮のもと、「夜明けから日暮れまで」を全員合唱し、終了しました。

○出演団体
☆新湊合唱クラブ☆富山中中部高校コーラス部☆富山いずみ高校合唱部☆女声合唱団「クール・クロア」☆福野あすなろ合唱団☆魚津高校音楽部☆富山あざみ女声合唱団☆富山アカデミー女声合唱団☆高岡高校合唱部☆高岡西高校合唱部☆富山高校コーラス部☆富山大学人間発達科学部附属中学校コーラス部☆女声合唱団「ゴール麗」☆男声合唱団K&クルー☆砺波市立出町中学校合唱部☆小矢部市民合唱団☆富山大学合唱団☆合唱団おさわの☆女声アンサンブル舞歌-maike-☆合唱団「あるも」☆富山東高校合唱部☆南砺福野高校合唱部☆やま女声アンサンブル「きらめき」☆合唱団「音楽室」☆合唱団「楽音樹」☆花水木会☆女声合唱団「ヴォーチェ・エフ・オンターナ」

総務部長 林 紀代美

合唱講習会を受講して

女声合唱団「クール・クロア」 永森 恵里
講師の岸信介先生は客席を見渡して、まずハミングで響き、滑らかさ、豊かさ等をチェックされた。課題曲「夜明けから日暮れまで」を受講者全員で歌ってみる。

事前に団で練習したが、なにせ我々は女声合唱団。四部で歌って初めて曲の壮大な全貌が見え、パート毎の役割がわかる。曲の中で発音や発声の注意点を指摘され、それはいつも団の練習でも言われ続けていることだと納得しながら、歌い進むにつれ曲が仕上がっていくのがわかった。

リズム・メロディ・ハーモニーの三要素からなる音楽の魅力を再確認する講習だった。

午後のコンサートは、中高生の素直な明るい歌唱を聴き、いつまでも歌い続けていて欲しいと願いを強くした。合唱団はそれぞれ個性的な楽しいステージを演じた。

最後に再び「夜明けから日暮れまで」を全員合唱したが、岸先生の総評をお聞きする時間の余裕が欲しかった。

室内合唱コンサートに参加して

小矢部市民合唱団 坂田 明雄
我々、小矢部市民合唱団にとって、今回の「室内合唱コンサート」はいつもと違う思いで臨みました。

昨年もこのコンサートに参加させていただきましたが、練習不足で散々な出来でした。

いつもなら、終了後、CDを聴いて「ここがよかった」「ここが悪い」などといわいわい批評し合うのですが、もう誰も「聴きたくない」状態。それというのも、11月に発表会があり、その後練習を始めるのですが、年末年始を挟むので、実質2か月。追加練習を含めても約15回で仕上げなければならず、昨年のように難しい曲だと撃沈してしまいます。

その意味で、今回は易しい曲だとは言えませんが「リベンジ」の思いで練習してきましたか。CDを聴いてみようかと思えるだけよかったような気がします。

富山中部高校コーラス部 2年 吉井 瑞貴
今回室内合唱コンサートでは、「ぼくはぼく」「天空歌」という2つの曲を演奏させていただきました。1曲目はとても短く、時間にして約1分です。その中に如何に自分たちの思いを込めて演奏できるか、表現の幅を持たせられるかということに試行錯誤を繰り返しながら練習してきました。

2曲目はその名の通り天空、いや天空を超えた果てに存在する宇宙をも感じさせるような壮大な力強さを持ち、かつ、一方では美しく静かに輝く星々もイメージさせるような曲調を持つ、非常に面白い曲でした。主旋律の入れ替わりやフレーズの繋がり方を強く意識し、上記のこの曲の良さを最大限に引き出せるように練習してきました。

本番では練習の成果を出せたとは思いますが、今の実力には到底安住してなどいられません。より広く表現の幅を持たせられるよう、音楽を「楽しむ」心を忘れずに精進していきます。本番を終えた部員たちからは、「楽しかった」という声がたくさん聞かれました。



演奏会 トピックス

加盟団体
-2019.12~2020.3-

合唱団クール・ファミーユ クリスマスコンサート
2019年(令和元年) 12月21日(土)
北日本新聞ホール

合唱団クール・ファミーユ クリスマスコンサートは今回が2回目の開催となりました。当日は、クリスマスソング、フランスマドリガル、宮崎駿アニメソングを演奏し、お花のプレゼント抽選会も実施いたしました。

第26回花水木会コンサート

2019年(令和元年) 12月21日(土)
富山市民プラザアンサンブルホール

初めての参加で、数ヶ月前から、どのような事かとの思いで本番に臨みました。練習で学んだ、発声の仕方、心の持ち方、歌唱、どの部分でも未熟さを感じ、終わってみれば、あっといいう間でした。そして、人様に聴いていただける喜びを、しみじみ感じた一日になりました。

第56回富山大学合唱団定期演奏会

2020年(令和2年) 2月22日(土)
富山市民プラザアンサンブルホール

富山大学合唱団は、今年度から久田潤先生が団の常任指揮者に就任され、私自身も団に新たな息吹を感じた一年でした。今回の演奏会は、新たな富山大学合唱団としての第一歩です。歌い手としてとても緊張しましたが、本番では練習の成果を十分に発揮できました。ご来場いただいた皆様、誠にありがとうございました。

富山少年少女合唱団第52回定期演奏会

2020年(令和2年) 2月24日(月・振)
富山市民プラザ2Fアトリウム

今回の演奏会では、信長貴富作曲「ひざっこぞうのうた」を演奏しました。子供たちなりに音楽を受けとめ、表現することが

できました。また、賛助出演フルートアンサンブル「ひなたぼっこゆかいな仲間たち」のみなさんには、優雅な音色、そして子供たちとの共演を通して、演奏会に花を添えていただきました。

子供たちの明るく元気な歌声が会場に響き渡り、みなさんからあたたかい拍手をいただいたこと、団員一同感謝しています。

合唱団「楽音樹」第10回記念演奏会

2020年(令和2年) 3月29日(日)

富山県教育文化会館ホール
合唱団「楽音樹」第10回演奏会は、音楽指導者である浅野深雪先生を、メインステージ「くちびるに歌を」指揮にお迎えし、3月29日(日) 昨今の状況を鑑み「無観客」で開催しました。音楽だけに集中した試みは、心の「記念」となりました。

これからの演奏会予定 -2020.5~8-

第15回富山県立高岡高等学校合唱部

コーラス・コンサート
2020年(令和2年) 5月30日(土)

富山県高岡文化ホール大ホール
今年で15回目を迎えるコンサートでは、一年間の活動の成果を発表させていただきます。

増井哲太郎作曲、混声合唱とピアノのための「平行世界、飛行ねこの沈黙」等、様々な楽曲をお楽しみください。

ご来場、お待ちしております。

第52回富山県立高岡高等学校合唱部

コーラス・コンサート
2020年(令和2年) 7月18日(土)

富山市民プラザアンサンブルホール
オリジナル曲を集めました。

元気な曲を集めました。

高校生らしい爽やかな歌声をお届けできるように日々頑張っています。是非ご来場ください。

連盟からのお知らせ

新たな時代を告げるべく、令和元年度がスタートしました。皆様のご協力により、富山県合唱連盟の事業も無事終了することができました。ありがとうございました。

しかし、令和二年になり新型コロナウイルス感染症の急速な拡大で、状況は一変しました。学校の臨時休校が延長され、新年度の部活動の立ち上げもままなりません。加盟合唱団の皆様の練習についても、中止を要請したところであります。歌えないことの辛さを実感しています。

今年度予定していた富山県合唱連盟創立七十周年記念事業は、来年五月三十日(日)に延期しました。皆様の演奏会予定等についてもご心配なことと思います。

「生活の中に音楽・歌がある」……そんな幸せな毎日が一日も早くやっ来てますように、今私たちができることに全力を尽くしましょう。新型コロナウイルスの終息を心から願っています。くれぐれも、ご健康にお気をつけください。

合唱連盟理事長 中井隆司

編集後記

令和二年四月は、異例の新年度のスタートとなりました。新入生、新社会人にとって、夢に向かって一歩を踏み出す「門出」の筈でした。

新型コロナウイルス感染症が世界中を震撼させています。

日本においても、クラスターを起す、いわゆる「3つの密」のリスクが合唱界にも大きな影響を与えています。

普通に笑い、会話し、そして歌うことができなくなった今、当たり前の日常生活がなんと幸せなことでしょうか。

今年、富山県合唱連盟は創立70周年を迎えますが、残念ながら開催予定の記念行事も来年に延期となりました。

今はただ、コロナ感染が早く終息して笑顔で70周年を迎えられることを祈るばかりです。

広報部部长 牧野 洋子
副部长 本多以都子
副部长 宮本 幸江